今昔物語 第59話

考古資料精選①
ナイフ形石器

写真の2点はナイフ形石器と呼ばれ、中垣内遺跡発見の契機となった昭和34年の東大阪変電所建設の際に出土していたものです。

この石器は後期旧石器時代を代表する石器の1つであり、特に瀬戸内技法と呼ばれる特徴的な剥離（はくり）技術を使用していることから国府型ナイフ形石器と呼ばれています。

これまで変電所構内において保管されていたため、周知されずにいましたが、およそ2万年前に製作されたものであることから、これまで最も古いとされてきた有舌尖頭器（約1万2千年前）より8千年以上も古いことになり、このことは市域の歴史についても旧石器時代までさかのぼることを明らかにしました。

当時はヴュルム氷期と呼ばれる寒冷な気候で、海水面も100㍍ほど低かったため、現在の大阪湾には古大阪川と呼ばれる川が流れていました。

そのような環境のなか、市域においてもナウマンゾウやオオツノジカが徘徊（はいかい）し、それを追ってきた旧石器人がさまざまな活動をしていたのでしょう。

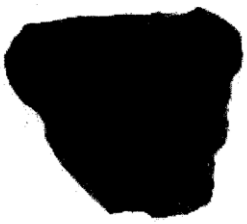
市域では最古、かつ唯一の旧石器時代の遺物であり、大変貴重な資料と言えます。

今昔物語 第60話

考古資料精選②
黒曜石（石器剥片（はくへん））

今回の資料は中垣内遺跡から出土した黒曜石と呼ばれる火山岩の一種で、平成5年の調査で確認された縄文～弥生時代の河川跡から見付かりました。

この黒曜石は島根県隠岐島産と推定されるもので、縄文時代に作られていた石器の剥片（石器を製作する時素材とする石塊から剥ぎとられた破片）と考えられています。

黒曜石の産地としては大分県姫島、島根県隠岐島、長野県和田峠、静岡県天城山、北海道白滝・十勝岳などに産地が限定されているため、近畿地方で出土することは非常に珍しいこととされています。

そのような中、市域で出土したことは注目に値するものであり、当時の社会における交流や交易の様子を知るうえで大変貴重な資料と言えます。